

地域福祉市民フォーラム実施報告

1 開催日時

平成31年（2019年）2月2日（土）午前10時から正午まで

2 場所

保健センター3階 研修室

3 内容

地域福祉市民フォーラムは、平成18年度から毎年開催しており、今回で14回目となります。今回は、平成30年に発生した災害の経験を踏まえ「災害に備える支え合い～顔の見える関係づくり～」をテーマに開催し、合計で98人の方（表1参照）に参加いただきました。災害時に隣近所で支え合うために、地域でなにができるのか、どう備えるのか、これからの地域防災力について考えるものとなりました。

表1 参加者の所属内訳

人数（人）（重複回答あり）

福祉委員	民生委員 ・ 児童委員	自治会	ボランティア	社会福祉 施設職員	その他※	合計
15	28	21	4	3	35	106

※市民、NPO、高齢クラブ、行政職員など

(1) 基調講演

「災害に備える支え合い～平常時から非常時へ～」をテーマとし、大阪大学大学院人間科学研究科 教授稲場圭信さんに基調講演を行っていただきました。人と人とのつながりの希薄化など現状の課題についてお話いただいた後、災害時には、お互いを思いやり支え合うことが重要であることや、そのためには、平常時から顔の見える関係づくりが必要であることなどをお話しいただきました。



現代社会は、交通手段や情報網の発達、雇用形態の多様化などにより

流動性が高く、人間関係を築きにくくなっていますが、支え合いや社会貢献という言葉がいたるところで使われ、災害救援ボランティア活動や困難な状況にある人たちへの寄り添い、支援活動が求められている時代です。このような時代において、災害時と平常時を連動させたり、高齢者・子どもの見守りや観光を組み合わせたたりした仕組みが必要であり、防災の取組は、日常の新たな「縁づくり」になるとお話しがありました。また、災害時に活用が期待される新たな手法「未来共生災害救援マップ（略称：災救マップ）」についてもご紹介いただきました。

(2) シンポジウム

災害に関する取組状況や活動事例についてお話しいただくシンポジウムを行いました。シンポジストは以下の方々です。

- ・ 自主防災組織（五月が丘地区）
- ・ 吹田市社会福祉協議会職員
- ・ 吹田市職員（危機管理室及び福祉総務課）

五月が丘地区の自主防災組織からは、地域での取組状況や大阪府北部地震での活動事例について発表いただきました。

吹田市社会福祉協議会からは、災害ボランティアセンターについて大阪府北部地震等での事例を基に発表いただきました。大阪府北部地震等のときに開設した災害ボランティアセンターでは、市内外の個人ボランティアさんの協力はもとより、普段から多くの団体とつながりをつくっていたことが、災害時にとても力になったということでした。

市からは大阪府北部地震等における市の対応・被害状況や災害時要援護者支援制度について報告しました。



4 まとめ

参加者からは、「平常時のつながり大切さを改めて認識した」「支え合いの社会をどう構築するか福祉委員、民生委員、自治会と相互連携の大切さを痛切に感じた」等の感想がありました。